

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第74号
令和4年12月23日

～ ふくしまの復興再生を願い、今、私たちが伝えたいこと！ ～

第44回少年の主張福島県大会

開催期日 令和4年9月22日(木) 場所 南会津町御蔵入交流館

「少年の主張」は、たくさんの夢や希望を抱いている中学生が、日常生活で感じ、あるいは考えていることをまとめ主張することで、広く社会に目を向ける機会を提供すると共に、大人の青少年への理解を高めることをねらいとして実施しています。

この取組は、国際児童年(1979年)を契機にはじめられ、福島県大会は、今回で44回目を迎えます。毎年多くの中学生が参加していますが、今年度も県内9,602人(147校)の中学生から応募がありました。

最優秀賞

黒田 彩未

小野町立小野中学校3年

子供が主張できる場所を

優秀賞

杉原 夢乃

南会津町立田島中学校3年

集団とストレスの関係

豊原 太一

喜多方市立山都中学校3年

「違い」を乗り越える

星 このか

南会津町立田島中学校3年

祖父の味を守るために

鈴木 穂乃花

泉崎村立泉崎中学校3年

言葉を一輪の花に

遠藤 誠大

二本松市立二本松第一中学校3年

古生物学は絶対に必要だ

優良賞

薄葉 好

いわき市立平第一中学校3年

自分らしく生きられる社会を目指して

小松 直輝

白河市立五箇中学校3年

「誹謗中傷」と「批判」

三瓶 朋華

田村市立船引中学校3年

大切な人へ

園部 華

いわき市立川部中学校3年

明るい未来を創るために

吉田 奈々美

伊達市立梁川中学校3年

世界の貧困格差について

小沼 羽香

会津若松市立第三中学校3年

曾祖父の手

佐藤 杏

会津若松市立湊中学校3年

「普通」を理解していくこと

服部 真友子

二本松市立安達中学校3年

未来の自分を笑顔にする方法

持立 海子

新地町立尚英中学校1年

作る責任使う責任

渡部 希暖子

会津坂下町立坂下中学校2年

私の笑顔が消えるとき



子供が主張できる場所を

小野町立小野中学校 三年 黒田 彩未

皆が生きやすい社会を作るには、どうする必要があるでしょうか。不平等をなくすことや、環境を改善することなど、すべきことはたくさんあります。その中でも私が特に大切だと思うのは、誰もが自由に主張できる場所を作ることです。

「誰もが」ということは、大人だけでなく小さな子供にも主張する機会を与えるということです。皆が納得して物事を決めるためには、私は子供の意見にも耳を傾ける必要があると思います。

私がこのように考えたきっかけは、国語の授業で小学生のスポーツの全国大会の廃止について作文を書いたことです。今年、小学生の柔道の全国大会が廃止されました。過度な減量と極端な勝利至上主義に疑問の声が上がったことが背景にあります。そのことについて、賛成か反対かの立場で意見を書くことになりました。

私は、全国大会の廃止に賛成の立場でした。成長期の子供たちに減量やきつい練習をさせ、時に罵声を浴びせてまで勝たせることに価値はあるのかと思ったからです。あくまでスポーツは楽しむもので、勝つためだけに試合のマナーを破ったり、子供を不幸にさせたりする必要はないと思いました。

しかし、今まで行ってきた大会を急に廃止してよかったのでしょうか。子供たちのための大会廃止だったことはよく分かりますが、果たして本当に子供たちのためになっていたのでしょうか。きっかけは勝利至上主義が過熱したことです。勝利にこだわっていたのは子供たちでしょうか。こだわっていたのは指導者や保護者だと思います。大人の勝利に対する思いが強すぎて、子供たちにつらい思いをさせ、ついには全国大会の廃止という、一番つらい結果につながってしまいました。

どうすればよかったのでしょうか。例えばルールを設けることが解決策の一つです。指導者は協会が定める資格を持つ者に限定する。大会で罵声を浴びせる者のための罰則を設ける。こうした対策をすれば、練習のあり方や大会の様子も変わってくるのではないのでしょうか。それでも守れない人が出た場合、そのときに改めて大会を廃止すればよいのではないかと、それが子供の思いに寄り添うということなのではないかと思いました。

子供たちが不幸にならないためにも、極端な勝利至上主義に走った大会を実施するべきではありません。しかし、全国大会に向けて頑張ってきた子供たちの目標を急に奪うのはかわいそうです。急に廃止するのではなく、まずは子供を第一に対策を取ることが大切なのではないかと思いました。

このような文章を書きながら、私は大人たちだけで物事を進めることの身勝手さに気づきました。子供たちのために思ってやったことが、実は子供たちのためになっていなかったということは、今までにもたくさんあったのだらうと思います。子供たちが関わることなのだから、まずは子供たちの意見を尊重することが大切だと気づきました。そして、その意見を自由に言える環境を整えることが何より大切なのではないかと思いました。

よりよい社会を作っていくために、私たちは建設的な意見をたくさん言い続ける必要があります。また、たくさんの、自分とは異なる意見をしっかりと聞く必要があります。そのときに、子供たちが考えた意見を主張できる場所があり、大人たちが真剣に子供たちの意見に耳を傾ける環境になってほしいです。そうすれば、どんな出来事が起きたとしても、大人も子供も皆が納得できる解決策が見つかるに違いありません。それが、誰もが生きやすい、よりよい社会の発展へとつながっていくのだらうと思います。

～令和4年度「家庭の日」作品募集～

6月19日から9月2日にかけて、小学生、中学生及び高校生を対象に「家庭の日」作文作品、絵画・ポスター作品を募集したところ、作文部門1,510点、絵画・ポスター部門232点(絵画172点、ポスター60点)の応募がありました。

本年度は、昨年度に比べて中学生の作品応募が増加しました。小学生の作品は作文が増加し、絵画は減少しました。

作文の部は第三次審査会、絵画・ポスターの部は第二次審査会を実施し、入賞作品を選考しました。作文、絵画・ポスター合わせて、最優秀賞8点、優秀賞28点、優良賞56点を決定しました。

最優秀賞受賞者には、11月18日(金)に開催された「令和4年度福島県青少年健全育成推進大会」の席上で福島県副知事から賞状と副賞が授与されました。

なお、最優秀賞の作文・絵画・ポスター作品、並びに優秀賞の絵画・ポスター作品は福島県青少年会館2階に展示しています。

＜令和4年度「家庭の日」作品 「最優秀賞」受賞者一覧＞

作文部門

小室 周士	玉川村立須釜小学校1年	ぼくのおにいちゃん
遠藤 晴太	二本松市立小浜小学校4年	お父さんが教えてくれたこと
菅野 龍志	二本松市立岳下小学校5年	ぼくが今できる努力
濱崎 凌	福島市立信陵中学校3年	ピースサインに込められた

メッセージ

絵画・ポスター部門

(絵画作品)

丹治 真心	二本松市立二本松南小学校1年	かぶとむしランド
一條 美羽	福島市立森合小学校3年	おばあちゃんとたべた レインボーかき氷
菊池 藍子	西郷村立熊倉小学校6年	家族と大きなニジマスつり

(ポスター作品)

矢吹 那奈	いわき市立中央台南中学校1年	あたりまえを大切に
-------	----------------	-----------

ぼくのおにいちゃん

玉川村立須釜小学校

1年 小室 周 士



県青少年健全育成推進大会での発表

ぼくには、ふたりのおにいちゃんがあります。ぼくは、ウルトラマンがだいすきです。ウルトラマンは、いつもみんなをまもってくれるせいぎのみかたです。おにいちゃんたちは、ぼくにとってウルトラマンのようなそんざいです。なぜなら、ぼくがこまったときに、いつもたすけてくれるからです。

ぼくが、しょうがっこうににゅうがくしてさいしょのころは、がっこうにいくのにきんちょうして、ないてばかりいました。そんなとき、ぼくのおにいちゃんたちがたくさんたすけてくれました。ひとつうえのおにいちゃんは、きょうしつがとなりなので、いちねんせいのきょうしつまでつきそって来て、ぼくがきょうしつにはいると

「だいじょうぶだよ。しゅうくん。」

と、こえをかけてくれました。おにいちゃんのことばであんしんしてきょうしつにはいることができました。みつつうえのおにいちゃんは、よねんせいなので、きょうしつがにかいです。でも、やすみじかんになるとにかいのよねんせいのきょうしつから、いっかいにあるいちねんせいきょうしつにおいてきて、ぼくがげんきにしているかようすをみにきてくれました。ぼくは、それがとてもうれしくて、かおをみるだけでにこにこになりました。こんなふうに、おにいちゃんたちがぼくをたすけてくれたので、いまではがっこうがだいすきになりました。

また、おうちでもおにいちゃんたちは、ぼくのウルトラヒーローです。ぼくが、おかあさんがいなくて、よるねむれないとき、おにいちゃんが、

「いっしょにねようね。」

といていっしょにねてくれます。そしてきびしそうにしているぼくのせなかをやさしくトントンしてくれます。ぼくはおにいちゃんにそうしてもらおうと、おかあさんがいなくてふあんなきもちがどこかへふっとんでしまいます。おにいちゃんのことばややさしさが、いつもぼくのなかにいるふあんかいじゅうをやっつけてくれます。

ぼくはまだいちねんせいで、じぶんでできないこともたくさんあって、ふあんになってしまうこともあります。おにいちゃんたちにたすけられてばかりです。でも、これからは、じぶんでじぶんのなかにいるふあんかいじゅうをやっつけられるようにすこしずつよくなりたいです。また、らいねんにはにねんせいになるので、ぼくみたいにきんちょうしたり、こまったりしているいちねんせいがいたら、

「だいじょうぶだよ。」

とやさしくこえをかけてあげたり、たすけてあげたりしたいです。そして、いつかおにいちゃんたちのように、だれかのウルトラヒーローになれるようにがんばりたいです。

【連絡・問い合わせ先】

住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5(福島県青少年会館内)
TEL 024-546-0002 FAX 024-546-8312
E-mail f-kenminkaigi@fukushima-youth.com/
HP アドレス <http://www.fukushima-youth.com/>